

拝啓、木々もすっかり芽吹き、新緑の葉が茂る季節となりました。

この度は約1年5ヵ月にわたるご支援を頂き、本当にありがとうございます。  
中2の2学期初めの運動会の練習がきっかけで教室に入る事ができ、おかげで  
娘は、生後3ヵ月より、保育所通い、小学校は6年3学期の入試まで、トータル  
して皆勤賞でした。又、校外活動ではガールスカウトにもお入り入団、ボランティア  
活動に野外活動と昇単位、全国単位の活動にも人見知りせず参加を  
していました。

このおかげで娘が、まだ中学校で不登校になるとは思いませんでした。

但し、家庭内における子供の様子には、心配の点がいっぱいあります。

学校内、学童での不満や辛い事は溜め込んでしまい、親に訴える報告は  
その出来事が起ってから数日、数週間経つてから多々あります。

特に小4~6年にわたっては担任の先生と合わず反発的な態度を取る様にも。

この時点で親の私達が娘の様子を発信し、気づき正しい家庭内対応を  
知っていれば違っていたかも知れません。

ところが私達夫婦は「ソあるべき」と引いたレールから娘のおまけ  
出さない様に修整をする事に必死でした。

また、娘が反発的だった小4~6年の先生方からは「娘の勉強の出来の悪さ」

「行動」に対する指摘を親が個人面談の都度言われる事で、親が責められている気がし、それを娘にぶつけてしまっていました。

「あなただちらやんとできないから」「あなただが先生の話を聞いていないから。」  
共働きで十分に子供の世話が出来ない事に負い目を感じ、その感情を娘にぶつくと共に、娘を自分達が望む、誰の目も文句を言われない子供にしようとしていました。

子供の人格が作られる大切なこの時期に間違えた対応をしていた事で、娘は自分の感情をケチに溜め込み、感情のコントロールが出来ないと爆発する。人に頼る事が出来ない、自分に都合の悪い事は人のせいにしてしり性格になってしまいました。

中学は私達親も娘も望むが私立の中高一貫校(女子校)に入学しました。女子特有の複雑な人間関係の中で何とか中2の学期までは頑張っていました。体育祭の応援団になり、上手く皆への指示が出せず、クラスメイトにツライ上げられた事をきっかけに教室へ入れなくなりました。体育祭の4日前でした。

親は「体育祭さえ終われば元に戻るだろう」と思っていました。でも娘は動けません。1週間休みが続き、時点を「これはおかしい」と感じ

夫婦でスクールカウンセラーの予約、学年主任担任との面談をお願いしました。  
3者と「まだ1週間です。様子を見ましょう」と話されましたが、私達は  
「娘が1週間を休むのは異常だ」と思いました。

そこで外部の不登校支援機関を探し、まず親の私にカウンセリングを  
受けました。カウンセラーは「大丈夫です。おそらく3ヶ月で教室に戻れるでしょう、  
と私に話しました。

この言葉にすばり、娘も外部のカウンセリングには任せてあげようとして、毎週1回  
カウンセリングに通いました。やがて娘は保健室登校を始め、時々休み  
程度の遅刻・早退で登校し、定期テスト類は全て受けました。

この機関に通う間、3種の心理テスト。その結果に基づいたコーチング、  
家族への話がありました。

約束された3ヶ月目の12月、娘はカウンセラーの指示に従い、2回クラス復帰を  
図りました。いずれも失敗に終り、2回目の失敗から娘の家庭内暴力が  
始まりました。私はおぼんじりで顔を殴られ、かみつかれ、夫は蹴られました。  
この時点で、ブログやSNSで知り合い、復学支援センターの方々の復学支援機関  
への変更を考え、一度相談メールを送り、年末にお返事を頂きました。  
私達はその回答から機関を変更したいと強く思ひおくりました。

一方、娘はクラス復帰をあきらめず、カウンセラーのアドバイスを元に1月の始業式に再度トライをしました。

やはり失敗に終わり、暴力はエスカレートしていきました。

すぐに初回相談メールを受けていた担任と機関の先生と直接お電話にてお話し、娘の不登校形態から水野先生のペアレントキャンプをご紹介いただきました。

初めて水野先生とお電話にてお話しさせていただいた時には、泣きながら話していました。

「何とか娘を教室に戻してやりたい。その為には何でもします」とお話ししました。

その際、娘の物は教室にずっと入れない別室登校の場合は対応が難しいことも教えていただきました。確かに娘は片道1時間、バスと電車、更にバスと乗り継いで学校に遅刻、早退と別室に通い続けていました。9月の不登校開始から昼夜逆転が一度もなく、学校がある日は5時半に起き、22時半には寝るという生活パターンを崩すことはありませんでした。

1月下旬より前の支援機関には辞める旨を伝え、ペアレントキャンプでの支援が始まりました。

まずは旧3ページほどの家族の会話を記入した家庭レポートの提出。

そして週3回の水野先生との電話カウンセリング。家庭ノートは娘に  
気がれない様に書くのが大変でしたが、週末に送付すれば、翌週  
すぐに添削して戻していただけるので、家庭内会話のクセや修整すべき点が  
すぐにわかりました。

電話カウンセリングでは日々の娘への対応を教えるだけでなく、大変  
助けられました。正直言ってこれが前の支援機関との大きな違いでした。

前の支援機関の時は、その時間内のみの対応(2時間)を次に  
行くまでの1週間、困ったことがあっても、娘の暴力があっても、相談する  
事は出来ませんでした。ペアレントキャンプでの電話カウンセリングで、私たちが  
家族は正しい家庭教育のあり方を少しずつ教えているだけでなく、実践に  
移していくことができたのだと思います。

家庭内対応を変えていくうちに、娘には微妙な変化が現れました。

親の様子を見て自分の状況について何か考えたのではありませんか。

まだ登校形態については変化が見られず相変わらず遅刻・早退での  
別室登校が続きました。

そして水野先生が直接娘とお会いして下さる日が3月下旬に  
決まりました。

スケジュール決定後、未曾有の大地震が私の住んでいる地域にも

驚きました。計画停電もありました。それとも来ている決意を  
して下った水野先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

娘は中2のクラスに入る最後のチャンスである始業式にクラス復帰を  
果たしました。そしてクラスのみならず温かく迎えられ、新3年生の  
クラスに入りました。

中3の1年間は友人関係は良好でしたが、女子校ならではの  
様々な出来事、そして私学であるやえの免検の壁を越える事が課題  
でした。復学後半年たった時には整対心が家庭内で上手くいかず  
再度暴かが出陣がありました。この時も適切な対処方法を時間外で  
おこなわり、すぐにアドバイスを下り本当に助かりました。

1年間は親も子も互いに目の前の道を進んでいくだけ必死だったかな  
気がします。娘は「苦しい時には苦しい」と言える子供に変わっていました。  
私はその言葉を聴ける母親に変わっていったと思います。

娘は苦境を乗り越えて、併設高校への進学を無事に果たしました。  
娘が中学を卒業すると共に、祖産家族もペリニッファンからの卒業を  
させていたべく事が出来ました。

過去を糧に変えて、これから親の免検を怠ることなく、日々  
頑張っていきたいと思います。

水野先生をはじめ、訪問したEITカウンセラーの先生方、メンタル  
フレンドスには感謝の気持ちでいっぱいです。

お忙しい日々かと思いますが、花冷えの季節柄 お体くれくれに  
ご自愛下さい。

敬具